

ササユリ



西伯地区にて

(撮影：桐原佳介)

■世界で西日本だけの花

上品かつ力強い印象のある美しい梅雨の花。葉の形が笹に似ていることが由来となつたその姿は、花のない時期は、本当に笹の葉に紛れて見つけにくいものです。ところが、毎年6月に入ると直径15センチほどの大きな花を咲かせ、個性的な芳香で強烈な自

己アピールを始めます。鼻を近づけるとくらりとするような色っぽさをも感じる濃厚な香り、そして淡いピンク色の花弁が深い緑色の背景により一層映えて、その色合いを際立たせます。日本特産種で西日本のみに生育する里山の百合です。

■普通の花だったのに

少し前までは、町内どこにでも普通にササユリが咲いていたそうです。しかし里山の維持管理が手薄になっていく昨今、藪の勢力に負けて種が落ちても光が十分に足りずに、そのまま球根が枯れてしまふことも。また盗掘などの影響も大きく、インターネットなどで自生地の情報が流れると、あつという間に持ち去られてしまう現状もあります。四国4県では絶滅危惧種として扱われ、大分県と宮崎県では県条例で採取等が禁止されているほどに希少種となっているのです。ササユリの花が咲くまでに、種から6、7年の時間が必要とのこと。

草刈りや枝打ち、藪刈りなどの人の手が適度に入っている二次自然を好み、まさにササユリは人の営みの傍に咲く花なのです。

■観光資源に上手な活用を

西日本各所に「ササユリの里」や「ササユリ群生地」として、地域の観光資源に活用しているところが多く、地元で自然環境の豊かさのシンボルにもなっています。今はまだ、町内で普通に見られるとは言いがたいところですが、将来的には、カタクリがそうであったように、球根を百合根の食材として採取しても、減少する心配がないほどに多くの株がこの町で育ってくれば、地域の元気にも大きくながるのではないかと思います。里山・山里の健康状態の目安とも言えるササユリ、また今年も大輪の花を咲かせることを楽しみにしています。

自然観察指導員

桐原真希

祐生出合いの館【緑水湖畔】インフォメーション ■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日

特別展『夢を形にして30年—安部朱美創作人形展』

5月9日(木)に観覧者1000人達成



開会式で町長のあいさつ



安部朱美さん



1000人目の入館者



昨年度の観覧者4000人目となった明道公民館の皆さん (2月24日)